

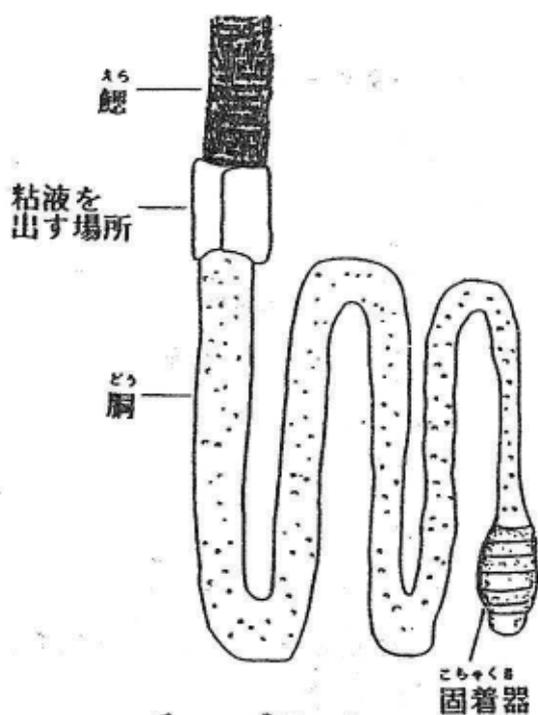
# 想像もしなかった生物の新発見

## — チューブワーム —

2000-4000mの深海底に熱水がふき出していて、そのまわりに奇妙な生物が多くすんでいることが発見され、世界中の生物学者を「あっ！」と驚かせました。深海には光が届かないので栄養がとぼしく、生物は少ないと考えられていたからです。このようすは、まるで砂漠のオアシス、伝説の竜宮城とでもいっていい感じです。その中で最もおもしろいのはチューブワームとよばれる体長1-2mに達する、ゴカイかミミズのような形の動物です。チューブワームという名前は「くだを持つ虫」という意味です。また、体の前のほうに羽織のような形の粘液を出す部分を持っているので、ハオリムシという名もつきました。

この動物のおもしろいのは目はもちろん、胃や腸などの消化器ももっていないことです。意外なことに、エサは食べないで、体内にいるイオウバクテリアから栄養をもらっていることがわかったのです。なお、イオウバクテリアは熱水に含まれるイオウの化合物（硫酸水素）を使って栄養分を作り、それで生きています。

今まで知られている動物は太陽のエネルギーをもとに生きています。たとえば、マグロはイワシや



チューブワーム

サバなどの小魚を食べますが、イワシはケンミジンコなどの動物プランクトンを食べ、その動物プランクトンはケイソウなどの植物プランクトンを食べています。植物プランクトンは太陽の光を使ってエネルギー源を作ります（これを「光合成」といいます）。このように、動物の食べ物も源をたどっていくと、結局は太陽の光のエネルギーに行きつくわけです。これにくらべると、このイオウバクテリアは太陽の光を必要としない「化学合成」という方法で栄養を作っているのです。熱水帯に住む貝の中にはこのイオウバクテリアを食べているものもあります。チューブワームをはじめ、熱水帯の生物はもとをたどればイオウバクテリアが作る栄養分で生活をしている特殊な世界なのです。

また、イオウや硫化水素は他の動物にとっては猛毒ですが、チューブワームは平気で、赤い血液が酸素と硫化水素の両方を運ばんし、血液を運んで体内にいるバクテリアに硫化水素を届けているのです。

特別展ではチューブワームの標本を一般に日本で初めて公開するほか、一緒にいた他の動物も展示します。ぜひ、ごらんください。（布村 昇）

チューブワーム  
◇ 一般の生物の場合



◇ 新しく発見された生物の場合



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号  
電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成元年8月 / 日発行